

外国人投資家の売買動向からみる日本株

Raku
Yomi

楽読(ラクヨミ)

nikko am
fund academy

日本株の主な買い主体であった外国人投資家は、サブプライムローン問題の表面化以降、日本株を大きく売り越す傾向が続いています。

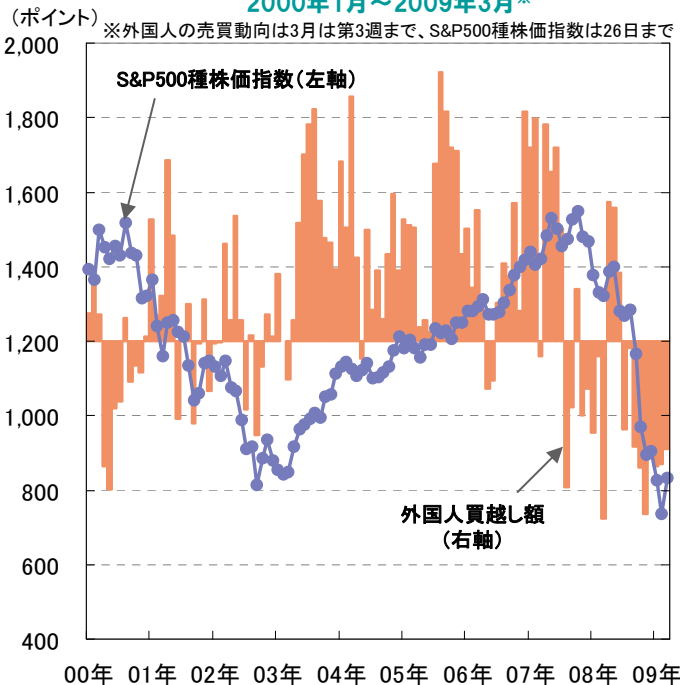
投資部門別売買動向(3市場、1・2部合計)の全売買代金に占める外国人投資家の比率は、足元で「買い」が54%、「売り」が59%となっています。ピークから低下したとはいえ、未だに高い比率であるため、日本株が外国人投資家の売買動向に振られやすい傾向が強いといえるでしょう。

下左図は、S&P500種株価指数と外国人の買越し額(日本株)の推移です。外国人投資家は、米国株が上昇しているときには日本株を買い越し傾向にあり、米国株が下落しているときには日本株を売り越す傾向にあることがわかります。そのため、今後の外国人投資家の売買動向を予想する上では、米国株の動きが重要になると考えられます。

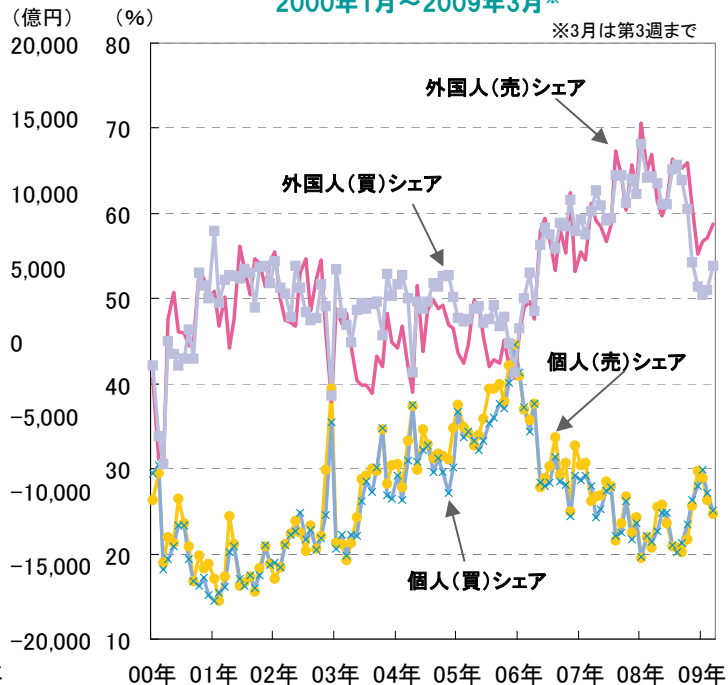
26日のS&P500種株価指数の終値は、12年ぶりの安値となった9日終値と比べ23%上昇しています。一般的に、相場が前回の安値から20%以上上昇した場合、ブルマーケット(強気相場)入りしたといわれることから、今後の米国株上昇による外国人投資家の日本株買いが期待されます。なお、昨日、東京証券取引所が発表した3月第3週の投資部門別売買動向(3市場、1・2部合計)によると、外国人は小幅ながら10週ぶりに買い越しに転じました。

S&P500種株価指数と
外国人の買越し額(日本株)の推移

2000年1月～2009年3月*

外国人・個人投資家の
売買金額シェア

2000年1月～2009年3月*



※上記は過去のものであり、将来の運用成果等を約束するものではありません。

[出所]東京証券取引所「投資部門別売買動向」

※信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。